



# What's Up, OITA!

世界で活躍する県人会員と留学生OB、大分県関係者の皆さま方に、大分の「今」をお伝えします。

## マイナビ ツール・ド・九州が今年も大分県にやってくる!

10月11日(金)~10月14日(月・祝) 大分・熊本・福岡で開催



昨年度フィニッシュの様子

「マイナビ ツール・ド・九州」は、ラグビーワールドカップのレガシーとなるスポーツイベントであり、世界に誇れる国際的な自転車ロードレースです。

第2回目の今年も、10月11日(金)~10月14日(月・祝)に大分県・熊本県・福岡県で行われ、国内外18チームが参加します。

本号では、大分県に関する内容をご紹介します!

10月12日(土)に開催される大分ステージは、別府市の立命館アジア太平洋大学を10時にスタート。その後、湯布院、長者原を経由し、日田市街地の周回コースを2周した後、大原八幡宮でフィニッシュです!

全長約138キロメートルの大分コースは、本レースで最も高低差があり、経路地の長者原では標高1000メートルを超えます。



大分コース地図



スパークルおおいたレーシングチーム

大分からは、Sparkle Oita Racing Team (スパークルおおいたレーシングチーム)が参加します。2021年から公式に活動を始めた大分県初のプロサイクリングチームです。「九州に熱狂を生み、世界に挑む」をチームビジョンとして、九州と世界の架け橋となることをめざしています。今大会でも、スパークルおおいたは大分県を代表して世界に挑戦します!

皆さん、ぜひ応援をお願いいたします!



10月12日(土)大分ステージの当日は、別府市・由布市・九重町・日田市にイベント会場が設置され、様々なイベントが開催されます。

また、当日のレース状況はYouTubeでライブ配信されますので、世界中から「マイナビ ツール・ド・九州2024」を楽しむことができます!

最新の情報は、右のQRコードから「大分ステージ専用サイト」をご確認ください。



大分ステージ専用サイト



## 「おにぎり」を新たな名物に ×

### くにさきおにむすび 大おせったい祭

3月9日（土）、「おむすび」を国東市の新たな名物に育てていこうと、鶴川商店街周辺観光・交流拠点施設で「くにさきおにむすび 大おせったい祭」を初めて開催しました。今回のイベントでは、みなさんの自慢のおにぎりを分かち合う「おにぎり交換会」と、国東市内の飲食店が腕によりをかけた「おにぎり」を無料で700個配布する「ふるまいおにぎり」が行われました。

「おにぎり交換会」に出品されたおにぎり（21品）



「ふるまいおにぎり」に出品されたおにぎり（9品）



## 姫島のアサギマダラ休息地



春のアサギマダラ

アサギマダラは、渡りをする優雅な蝶で、姫島に自生するスナビキソウの蜜をもとめて、5月上旬から6月上旬頃、南の地から飛来し、姫島で休息したのち、涼しい北の地に向かって飛び立ちます。



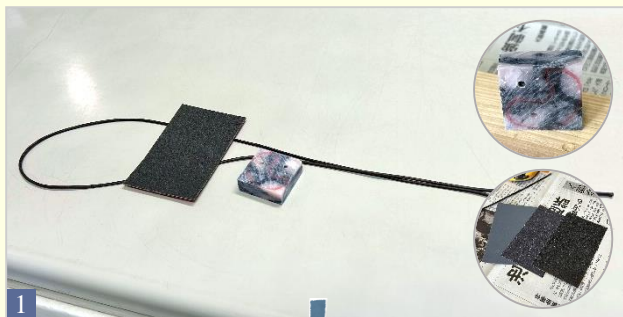
秋のアサギマダラ

10月中旬頃、その世代を交代した蝶が北から暖かい南へと向かう途中で、姫島に生えているフジバカマの蜜をもとめて、姫島で休息します。

春秋いずれも、アサギマダラ飛来中は無料鑑賞バスを運行します。



弥生時代の歴史や生活、文化を学ぶことができる体験型の施設「国東市歴史体験学習館」で「勾玉づくり体験」をしました。ひたすらに削りながら夢中になれる、楽しい体験でした♪



- 1 勾玉づくり体験 (300円)の受付をし、材料 (滑石、紙やすり2枚、耐水ペーパー1枚、ひも)を受け取ります。
- 2 滑石に描いてある勾玉の下書きを参考にして、カッターノコギリで大まかに角を切り落とします。
- 3 切り出した勾玉がくるとしたC字型になるよう、粗めの紙やすりで削ります。
- 4 この時、勾玉のころんとした曲線のデザインを生かしているか確認をします。
- 5 丸棒に紙やすりを巻きつけて削るなど、色々な方法で好きな形になるまで磨きます。
- 6 形が整ったら、中目の紙やすりで表面がなめらかになるように擦ります。
- 7 勾玉を水につけて耐水ペーパーで磨き、キッチンペーパーで水気を拭きとって、穴にひもを通します。
- 8 丸くてかわいい、世界に一つだけの勾玉ネックレスの完成です! (所要時間:約1時間30分)  
※体験をする間、スタッフさんが側にいてくれるので、行き詰まったときには気軽に聞きましょう。

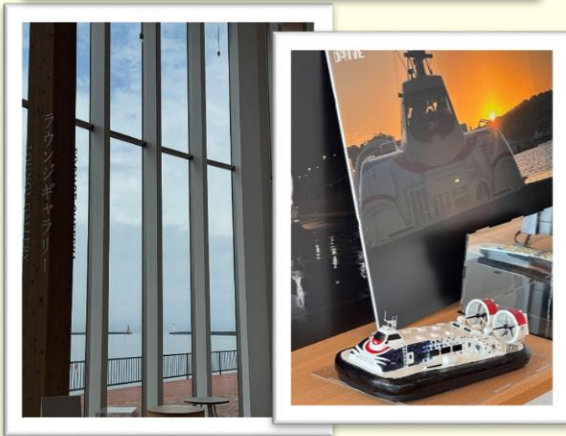
# ホーバーが紡ぐ未来への期待

中国国際交流員 楊 佳 (ヨウ・カ)

新築のホーバーターミナルに立ち、私は思わず目の前の光景に見入ってしまいました。十数年ぶりに、ホーバーがやっと復活します。

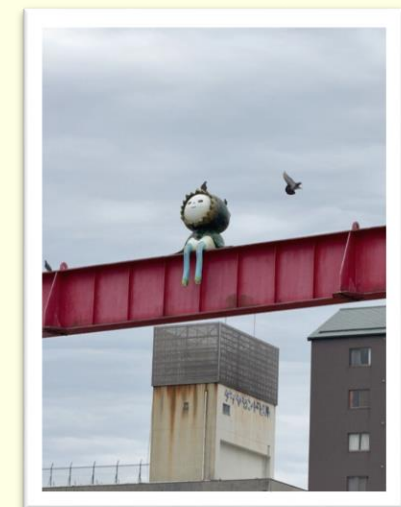
建物のデザインはシンプルでありながら、モダンで印象的です。内装は杉材をふんだんに使用し、高低差のある柱が林立する様子が、まるで森の中にいるかのような。晴れた日には大きな窓越しに美しい景色を一望でき、夜になると、ペンダントライトが木々の隙間から覗く星空を演出します。ここは単なる待ち合わせ場所ではなく、特産品を買ったり、地元グルメを楽しんだり、旅の思い出作りにぴったりの場所になりそうです。

個人的に最も魅力的なのは屋上の展望スペース。長い廊下をゆっくり上がると、壮大な海のパノラマが広がります。ここに立つと、まるで船上にいるような気分になり、これから始まる旅にワクワクが止まりません。



船と言えば、武漢の長江フェリーを思い出します。毎日多くの人がフェリーで川の兩岸を行き来し、彼らにとってはごく普通の日常でしょう。しかし、山に囲まれた地域出身の私の目には、いつも特別でロマンチックな光景として映ります。大分のホーバークラフトも、きっとそんな特別な存在になるのではないのでしょうか。

整備庫で初めて間近で実物を見た時は、その大きさに驚きました。全長26m、プロペラの直径だけでも3.5mあり、まるで眠る巨獣のよう。80名もの乗客を収容できる広々とした客室は車いすでの乗船にも対応。防音性に優れ、エアクッションのおかげで波の揺れも軽減されるそうです。



就航後は、空港から市内までの所要時間が1時間から約30分に短縮されるとか。時間の節約だけでなく、今までと違う視点で大分の魅力を再発見できそうです。朝日に染まる山々、飛び交う水鳥、真昼の陽光に輝く海面、夕暮れ時に灯りをともす街並み…海上から見る大分の景色は、きっと新鮮な感動を与えてくれるはずです。

帰り際、ターミナル近くの「マッテルモン」が目にとまりました。門の上に鎮座する小さな怪獣は、旅立つ人を優しく見送り、帰る人を温かく迎えているかのようです。

この秋、大分は新たな1ページを開きます。近い将来、ホーバークラフトの窓から眺める海と空の織りなす風景が、訪れる人々の心に残る思い出になることでしょう。

# ノジ in おおいた

国際交流員の日常 vol.38



ノ・ジヨン  
作： 盧 知榮  
(Noh Jiyoung)

「ノジさんは休みに何をしますか」  
と普段よく聞かれるので、  
今日はその回答をしていきます。

大したことのない  
普通の日常です！



インドア派なので  
つまらないかと思いますが  
ご紹介します！

1

①何もせずに、ゆっくり休む  
(=頭を全く使わない)



イン★リアル、  
You●be ショート  
動画視聴3時間目

2

②見たかった映像を視聴する



映画やドラマ等の長い映像を観たり、  
完結したアニメを観たりしています。



3

③一人で宅飲みをする  
(②とセットすることが多い)



4

④後回しにしていた家事をする

もう本当に嫌  
なんで家事は  
やってもやっても  
終わらないわけ??

ブツブツ



でもしなきゃ  
いけないのが  
マジで疲れる  
ほんと家事嫌い

5

⑤友達と遊びに行く  
(ドライブ、ご飯、カフェなど)

こないだ食べた肉  
美味しかったなあ



6

何気ない日常を楽しむ私ですが、  
来年には大分を離れることになるので  
今年はずっと活動的に過ごしたいと思います！

★大分で  
やりたいこと  
・自転車で  
西大分へ！



・霧氷  
見に行く

・??に  
出る

7



2  
先日は  
外に出て、  
落ち着いた  
雰囲気のカフェで  
本を読みました

8

# From our Reporters 国際交流員だより



【ご報告】アメリカの国際交流員は一身上の都合により退職いたしました。

## 心落ち着くクスノキ

ノ・ジョン  
韓国国際交流員 盧知榮

7年前、他県のとある神社の竹林で大きなクスノキを見たことがあります。緑に囲まれた樹齢3千年の巨大なクスノキの姿を初めて見たとき圧倒されましたが、じっくり見ていたらどんどん心が落ち着いてきました。そんなクスノキの魅力を知った私は、県外へ旅行する時、有名なクスノキを見に行くようにしています。

先日、気の向くまま市内を歩いていたら、偶然春日神社のクスノキが目に入り足を止めました。春日神社の御神木は、推定樹齢約千年とされる高さ20mの巨樹ですが、街中に大きなクスノキがあることに驚きつつも、いつも遠くまでクスノキを見に行っていたので、近くにもあることが知れて嬉しかったです。

静かな境内で何も考えずに、風に吹かれる巨大なクスノキの緑色の葉っぱが見られる心安らぐ場所なので、皆さんも考えを整理したい時には、このクスノキを見に行ってみてくださいね。



## 夏の残響

ヨウ・カ  
中国国際交流員 楊佳

夏生まれの私にとって、夏は一番特別な季節です。一年で最も活気にあふれ、心に残る思い出がたくさん作れる時期だからでしょう。

そんな夏の魅力の一つが、花火大会です。

初めて花火大会に行ったのは5月のこと。てっきり浴衣姿の人でいっぱいだと思い込み、旅館の浴衣を着て出かけました。ところが驚いたことに、誰一人浴衣姿の人はいないではありませんか！場違いな自分に気づき、恥ずかしさのあまり、木陰に隠れるようにして花火を見ることに。

夏の本番になったら、みんな浴衣を着ていくよと同僚に教えられたけど、やはり半信半疑。いざ、7月末に花火大会に行ってみたら、全く違う光景でした。賑わう人混みの中、浴衣姿の人々が屋台の並ぶ通りを笑顔で歩いていました。

立秋を過ぎ、芝生や木々の葉も少しずつ色づき始めました。あっという間に燃え尽きる夏という花火。その余韻を惜しみながら、存分に楽しみたいものです。



## あなたの活動を世界に紹介しませんか？

県人会の活動(懇親会等)や留学生OBの近況など、世界中の大分県関係者に紹介したい話題をお寄せください！  
(様式は任意です)

【記事提供／お問い合わせ先】  
国際政策課 担当:生野、中山  
【Mail】[a10140@pref.oita.lg.jp](mailto:a10140@pref.oita.lg.jp)

